

4. 旅日記

10月23日(月)

10月23日朝、いつもより少し早く起きた私は、これから向かう奄美の準備をしていた。前日までアルバイトに追われていたため、半分ほどしか詰まっていないキャリーバックを見つめ、忘れ物をしていないか考えていた。1時間ほどで全ての準備を済ませ、急ぎ足で成田空港へ向かった。空港までの道中、乗り換えを間違えてしまい、20分ほど集合時間に遅れてしまった。空港に到着し、急いで搭乗手続きを済ませ、軽い朝食をとりながら、搭乗時刻までの時間を過ごしていた。それから、予定通りの2時間30分のフライトを終え今回の目的地であり、私の故郷である奄美大島へ到着した。当初の予定では、到着してすぐに龍郷町役場に挨拶へ行くことになっていたが、到着の時間が4時を過ぎていたということもあり、翌日に変更となった。夕食の時間まで自由行動となったので、私は趣味のサーフィンをするため手広海岸へ向かった。2時間ほどサーフィンを楽しんだ後7時ごろ夕飯を食べに向かった。郷土料理である鶏飯を食べるため、ひさ倉というお店に行き、みんなで鶏飯を食べた。その後、龍郷町にあるホームセンター「ビッグ2」で各々買い物をし、ホテルに戻った。ホテルに戻ってからは、翌日の打ち合わせを軽く済ませ、翌日に備えそれぞれの部屋に戻って行った。(中原銀太)

10月24日(火)

今日は盛りだくさんの1日だった。9:00にロビーに集合し、まずは名瀬のAIAIひろばであまみ大島観光物産連盟の元井さんから奄美大島の観光についてお話を伺った。小さなオシャレなカフェで昼食を済ませ、名瀬の街を歩いた。アーケードのある商店街が印象的だった。龍郷町役場に挨拶をした後は、奄美自然観察の森へ移動。ハブが出そうな山道を抜けるとそこは奄美の海と山と空が一望できるビュースポット。本当に感動した。みんなたくさん写真を撮ったので、今からアルバムを見るのが楽しみである。その後は、各班に分かれて事前に調べてあったモデルコースを周った。私たちのグループは今井崎神社の方へ向った。舗装されていない道を通り抜けると海とソテツが見えるパッと開けた絶景ポイントがあり、レジャーシートを持ってきてピクニックでもしたくなるような、風が気持ち良い場所だった。その先は神社と灯台の二手に分かれており、私たちは灯台を選択したが、その前の道とは比べ物にならないくらい細く、一歩間違えたら崖へダライブしてしまいそうな道だった。台風21号の爪痕で草木は荒れて倒木もあり途中でリターンしたが、なんだかんだ楽しかった。来た道を戻り、安木屋場の海ではのんびり過ごした。少しだけ海に入ってみたり、シーグラスを集めたり。かかんばなトンネルの手前では水平線に沈む夕日を観た。あんなに綺麗な夕日を観たのは初めてで、時間を忘れ見入ってしまった。夜は各グループで食べるはずだったが結局みんなで番屋へ。海鮮丼とマグ汁を頂いた。初めてのマグ汁はその色に驚いたがなにより美味しかった。その後はみんなで星を観に色んなビーチを周った。夜の海は少し怖い感じもしたが、都会では観られない星たちがたくさん空はやっぱり綺麗だった。(栗袋愛美)

10月25日(水)

今日が一日中調査ができる貴重な1日。みんなが大好きなカレックの朝食を済ませて9時にロビーに集合。それぞれ3グループに出発。実際に自分たちの考えたコースを巡ってみる。前日午後に戻ったことを活かしながら、それぞれ旅立った。私たち、チームJBLLY JELLYは前日の撮れ高が悪かったため、再び秋名集落へ向かった。前日はすでに日が落ちた頃に来たため、やはり明るい時間帯で見るとは雰囲気は違っていた。

ショコガマ祭場地から眺める集落の景色は、空気が澄んでいて素敵だった。平瀬マンカイにも立ち寄り、昨日撮れなかった写真を撮りペンジを果たした。そこから少し車を走らせて、今井権現神社へ向かう。マップを頼りにするも、入り口がわからない。しばらくさまよい、近くのおじさんに色々聞くと、「案内するからついてこい！」おじさんの車の後についていくことに、やっぱり奄美の人は優しい。なかなか険しい道を行きつらかった。海は何度見ても飽きない。それから神社に向けて階段を登る。急すぎて腰痛持ちの私にとっては地獄。登りきり参拝して、階段を下る。帰りは膝にきた。また車を走らせ、あいなへ。こじんまりとしたお土産屋で、たんかんジュースやキャラ豆もいただいておばさんのお話も聞けてほっこりできた。お腹の空いた私たちは島とうふやへ。私はマーボー豆腐丼をいただいた。軽食って書いてあったのに全然軽くない。コスバの良さに感動した。お腹を満たし、陽菜が友達から聞いた絶景スポット、二つの海が見えるところへ。なかなか見たことのない景色にこの旅一番の感動。後から思い返すと昨年最終日に訪れたけど、工事中で行けなかった場所だった。最後に大好きなビッグIIへ寄って、がじゃがじゃを回した。カレッタに戻り19:00頃、最集合。今夜の晩御飯は名瀬にある「居酒屋脇山丸」へ。刺身盛り合わせがとても豪華で、みんなが目を輝かせながらがついていた。ほどよくお酒も入ってとてもいい気分だった。やっぱりみんなと囲むご飯やお酒はとっても美味しいと実感。これもこのプロジェクトの醍醐味。帰りに昼間にも行った、三つの海が見えるところで天体観測。雲がかかりながらも、手に届きそうなほど近く見えた。帰りに、志摩先生が大好きなトンネルにも寄り道。そこでみた星空がまた格別綺麗で言葉がでないほど。山に囲まれ360度見渡せる星空はプラネタリウムのような感じだった。(丸山萌香)

10月26日(木)

天気は曇り。成果発表前日の大事な1日だ。龍郷町祭場の前の「りゅうがくかん」をお借りして、各班準備を進めた。PPTをつくるにあたって不足しているデータや写真、まだ現場確認が必要な箇所は午後にそれぞれ行くことになった。午前中は、できるだけPPTを完成させ、チラシを作ったり、地図を作ったり、とどの班も時間に終われながら、一生懸命に進めた。昼食の時間になり、天気も回復してきたので、近くの商店で、弁当やパンを買い、りゅうがくかんの外に設置されていた高床の小屋でみんなで輪になって食べた。地元の人から愛されている商店で、どれもおいしくて、なんといっても安かった。暑すぎず、寒すぎず、心地よい風がふき、最高の時間であった。ゆっくりと時間が流れ、つかの間の休憩を楽しんだ。午後からは、りゅうがくかんに残って作業をする人、実際に現場に行く人、とに分かれて作業を行った。前日は天気が悪く、ずっと雲がかかっていたので写真をうまく取れていない班が多く、海や景色の写真を再撮影しに行った班が多かった。17時になって、閉館の時間になり、作業をやめた。山崎先生の後輩の方が奄美大高にいらっしやっていたので夕食を一緒にすることになった。人数や時間も考えて、名瀬のお好み焼き屋にはいった。何人かでシェアしているいろいろな種類のお好み焼きや焼きそばを食べた。ここのお店は、学生に良心的で、私もよく学生の時に学校帰りに寄って食べており、特製のたれが絶品で、とても懐かしかった。まだまだ発表の準備が終わっていなかったもので、早く、一刻も早く帰って作業したい学生とは裏腹にとんでもなく盛り上がり過ぎていた先生方は長居しようとしていたが、説得してホテルに帰った。途中で車を止めてみた満点の星空は今でも忘れられない。流れ早なんて、飽きるほど見た。そうして、ホテルに帰り、また準備を始めた。みんな眠たくてしょうがなかったが、各班協力して、しっかり終わらせた。最後の班は朝の4時までかかったそうだ。遊ぶ時は思いっきり遊んで、やるときはやる。そんなメリハリのできる素敵な1日だった。(齊野平陽菜)

10月27日(金)

いよいよ最終日。天気は台風が近づいている影響もあって雨が降っていた。遅くまで発表のパネルポイントや動画、原稿などを作成していた影響もあり、案の定予定通りには起きられなかった。他のメンバーも眠たそうだった。発表ギリギリまで修正いざ、発表。昼食がかかった大事な発表が始まった。最初のチームは謎旅と題したミステリーツアーを提案していた。出されたヒントを基に謎を解明しつつ龍郷の食や景色を堪能

できるとても面白そうな企画内容だった。次のチームは独自のドライブコースを歩きながらインスタグラムを活用して龍郷町内の「インスタ映え」するようなスポットを巡るツアーを提案していた。実際にインスタグラムのアカウントを作成してどの写真も龍郷町に来たくくなるような写真ばかりだった。観光サイクルや民泊についても触れていて民泊はこの先申請が通って実現してほしいと思った。最後は私達のチームだった。私達のチームは7しよく（食、色）を巡る旅を企画した。美味しいごはんとビュースポットを独自に考えた7つの色になぞらえて龍郷の魅力を探しながら巡るという企画であった。前日の頑張りもあり、無事にプレゼンテーションを終えることができた。こうして3グループ全ての発表が終わった。どのグループの頑張りも認められ全てのグループが1番となった。その後、昼食を食べに和風茶屋こっちという古民家カフェに行った。私は、石垣牛のハンバーグを食べた。もう幸せな気持ちになった。最後に悪天候にもかかわらず海に行き写真を撮った。こうして4泊5日の旅コンペは幕を閉じた。台風の影響もあり、延泊した人もいたが無事に終わることができ本当に良かった。島の魅力が沢山見えて奄美大島が、龍郷町がとても好きになった。皆それぞれ学んだことや発見があったようでとても充実した5日間だった。（田中綾華）

10月28日(土)

昨日のうちに半数以上の生徒と先生と別れ、八人の生徒と二人の先生が残り、私たちは昨晩から龍郷町を離れ等利町のゲストハウス「ロングビーチ」に宿泊していた。昨日の報告会が終わり達成感と開放感に満たされ、肩の荷が下りた生徒たちは皆昼過ぎに起床した。海で泳いだりマングローブ林を見に行ったりやりたいことはたくさんあったがこの日奄美大島に台風が直撃し、外では風の吹き荒れる音が聞こえ、とても外出できるような状況ではなかった。部屋の中で退屈そうにしている私たちにこのオーナーである健おじいさんが三味線を教えてくれた。夕方になり夕食の準備を始めているとついに恐れていた停電になってしまった。本島の最北端に位置する筑利町は復旧が一番遅いらしく、早くても一日はかかるという。夕食はガスコンロを用いての鍋。最高に美味しかったが、窓も開けられずエアコンも扇風機もない状況で暑くて仕方なかった。夕食は健おじいさんを含めゲストハウスに宿泊している三人の男性や近所のツアーガイドのご家族（健おじいさんの知り合い）も一緒であった。顔を合わせて一日でここまで深い話ができるのかというくらいいろいろな話があった。特に、健おじいさんと奄美大島の観光について熱く語ったことは忘れられない。観光に携わっている現地の方の意見を聞ける貴重な機会であった。そのあともツアーガイドのご家族の子供たちと遊んだりみんなと談笑したりと素敵な時間を過ごすことができた。そして、明日には電気が復旧していることを願って就寝した。（吉満幸保）

5. 研修を終えて

網中美里

10月23日、私たちは奄美大島へ出発した。直前まで台風が心配されていて、果たして予定通り飛行機が飛ぶか？分からなかったが、いざ成田空港に着くと欠航の便はほとんどなく、無事に奄美大島へ到着することが出来た。飛行機を降りると南国の温かい風に包まれて懐かしい気持ちになった。昨年も同時期に奄美大島へ来て、「アイランドキャンパス事業」に取り組んだ。しかし、昨年は準備不足などで不完全燃焼に終わった気がしていた。なので、今年もぜひこのプロジェクトに参加しようと決めた。今年とは違い、「食」をからめたモデルコースの作成に挑んだ。以前から龍郷町役場の職員の方から、「龍郷町は奄美空港と名瀬市のちょうど真ん中であり、ただの通過点になっている」という話を伺っていた。そこで、私たちは龍郷町の魅力をたくさん盛り込んだ一泊二日のモデルコースを作成し、またそれを役場のHPなどで紹介できたら龍郷町への観光客誘致に繋がると考えた。私たち「チーム Jelly Jelly」のテーマは「ミステリーツアー」だ。「食」を中心に、名前を聞いただけでは想像がつかないような食べ物やお土産、絶景スポットを巡り、謎解き感覚の体験型ツアーにすることで、奄美大島の歴史にも触れられ、旅の満足度も期待できると考えた。一週間弱と限られた時間を有効活用するために、あらかじめ東京でツアーの内容やコースを考えていた。そして実際に奄美大島に着いて自分たちの足で回ってみることで、移動時間や天候による景色の見え方、費用など細かい改善点が見えてきた。まず、龍郷町は車がないと移動が不便である。そのため、このツアーもレンタカーを借りる前提で考えた。海鮮料理やで食べた「まだ汁」、これはイカ墨から作られたお吸い物であり、当然ながら見た目は真っ黒、しかし一度口にと癖になるほどとても美味しかった。他にも、西郷隆盛の奥さんの名前を使うことで島の人たちに親しみを持ってもらいたいという気持ちが込められて名づけられた「あいな」や古くから伝わる伝統行事「ショチョガマ・平瀬マンカイ」、島とうふ屋で話題の「ミキ飲み放題」など。他にもインターネットでは得られなかった山の頂上付近にある神社や左右に海が一望できるスポットなどをモデルコースに盛り込んだ。私は観光学科のホスピタリティ・マネジメントコースに所属し、普段はホテルやプライダル、料飲サービスを主に勉強しているため、こういった実際に自分たちの足で調査して、調査結果をもとに企画を考えるという作業が新鮮でとても楽しかった。それと同時に大切なことにも気づいた。観光をすすめていくなかで、やはり島民の人の意見や気持ちを大事にしていかなければならないと思った。ゲストハウスのオーナーのおじさんが「奄美は沖縄に比べたら閉鎖的かもしれない。しかし、観光だけを考え沢山の人が訪れることによって石垣島のように珊瑚が死んでしまったり、砂浜がゴミだらけになる恐れもある」と話していた。奄美大島の綺麗な海や360度見渡せる山々を守っていくためにも、受け入れ態勢を整え、「生きた島」である奄美大島をもっと全国に発信していくべきであると感じた。また最近では民泊も流行りだしているが、これもゴミや保険など様々な問題を抱えている。2020年の東京オリンピックに向けて、観光客の受け入れ態勢を交通・宿泊・レジャーなど早急に整えていく必要があると考えられる。最後に、今年度も龍郷町で発表の場を設けてくださった龍郷町役場の方々やお世話になった島民の皆様、貴重なお話をしてくださったDMOの方々にとっても感謝している。

荻野弥結

前年度に引き続き奄美大島龍郷町を訪問させていただきました。今回は観光ルートの発見がテーマであり、各々気になるスポットを巡っていく5日間でした。その中で感じたのは「豊かさ」でした。

まず目に入ってくるのは、豊かな自然。10月にしては強いと感じる陽射しと海、山。普段の都会の暮らしにはないものに囲まれていました。その自然を感じながらのドライブは、風を切る感覚と潮の香りがとても

心地よいものでした。また、山から見る海と空はどこまでも青く、とても印象深く記憶に残りました。

そして、自然と共に、食の豊かさも感じました。新鮮な食材から作られる島の料理は、素材の味がしっかりと活かされていました。中でも印象に残っているのはイノシシ肉。臭みのない赤身は、奄美のイノシシの特徴だと、イノシシ肉を振舞ってくださった方からお聞きしました。その方は、偶然近くにいた私たちを快く迎え入れてくださり、昼食の準備をしてくださいました。塩コショウでシンプルに味付けされたイノシシ肉で空腹を満たし、飼われていた30羽以上のウサギに癒されて、大満足でした。

さらに、龍郷町はフォトスポットの宝庫でした。自然がきれいに撮れるだけでなく、お店一つ一つを見てもオシャレな内装で、目を惹かれるものばかりでした。また、朝・昼・夕方・夜と時間帯によって表情を変えていく景色も見どころ満載でした。特に周囲の街灯が少ない山から見た夜空は満天の星空で、非常に神秘的であったと思います。

普段、都市での生活を送っている私たちの周りには、多くの物があふれています。そうした「豊かさ」は当たり前のものでして享受され、認識が薄れることがほとんどです。それでも、あれが足りない、これもほしいとより多くを望んで暮らしています。しかし、奄美で過ごした5日間は、いつもとは違う「豊かさ」を感じ、とてもリフレッシュできた時間が多くありました。これまで大学生活4年間、様々な地域へ行き、多くの景色を見てきましたが、ここまで心が落ち着く場所は他にはなかったように思います。東京に戻り、日々の生活にまた馴染んできたころ、思い出すのが奄美の「豊かさ」です。

私にとって去年今年と2回にわたる奄美研修でしたが、参加できたことをとてもうれしく思います。また来年も奄美を訪れたいところですが、果たして行くことができるのか、何とかしていきなさいと考えを巡らせています。それくらい魅力の詰まった場所でした。

最後になりますが、龍郷町観光課の職員ご一同様をはじめ、多くの方に温かく迎えて頂いたこと、心より感謝申し上げます。

2017.12.5

齊野平陽菜

今年で2回目の奄美大島アイランドキャンパス、やはり最高でした。最初は初めてのメンバーで上手くいくか心配だったが、段々と心を打ち明け、最後は帰っていくメンバーを惜しむほどになった。去年の発表の際、町役場の方の空港から名瀬市に行く間にあるため、龍郷町に人が来ない、通過点になっている、という課題をヒントに「龍郷町ツアー」を3班に別れて考えた。発表までの時間がないなか、龍郷町という小さな地域でまわるスポットや食事する場所は限られていながらも、3班のテーマやアイデアが被ることなく、どれも違う視点で龍郷町をみており、とても有意義な1週間であったと強く感じた。私たちの班は、奄美大島ならではの方言や地名に焦点をあて、ミステリーツアーと題して、初めて来た人が謎を解く感覚で楽しんでもらえる企画を提案した。「あいかな」「たんかん」「ハートロック」「安木屋場」「まだ汁」「平瀬マンカイ」「ショチョガマ」「ミギ」など初めて来た人には、そのワードがお店なのか食べ物なのか、スポットなのか、想像もできないと思う。ヒントを与えながら、まわってもらい、自分たちでその場所に実際にいってもらおうという内容であった。事前に考えていたコースを実際に現場に足を運んで巡ってみると、色々な問題点が見つかったり、時間調整が上手くいかなかったり、とたった1日のプランを考えるのに試行錯誤した。Googleマップにも載っていないような場所もあり、行き方に苦戦したが、そこはやはり奄美大島、通りすがりの方々が声をかけてくださり、目的地まで案内してくれた。私が何回も行きたくなる理由は、そこにあるな、と研修中に何度も感じた。暖かい気候に、ゆっくりとした時間が流れ、それに適した人たちが住んでいる。人懐っこくて、優しく、恋しくなる、素敵な素敵な場所だ。発表が終わり、メンバーが半分減ったところで、ホテルを移動し、民宿に泊まることになった。狙ったかのように台風がきて、丸一日停電した。初めてこのような経験をして、最初は戸惑ったが、民宿で偶然にも一緒になったサーファーの方や親子とバーベキューや鍋をして、停電を楽しむことができた。1日中電気が使えないなんて、そんな経験これからあるかどうかかわからないが貴重な体験ができたと思う。夏休みに行って鹿児島県のインターンでも、離島振興課に配属させていただき、ここ数ヶ月で奄美大島のことをもっと知り、もっと好きになった。まだまだ離島には多くの課

願があると思う。私たち学生の方ではどうにもならない問題ばかりだと思うが、少しでも私たちが奄美大島のことを発信して、現場を助け、魅力を伝えていかなければならないなど感じた。奄美大島のスローライフを多くの人に体験してもらいたいが、観光地化することで起きる問題や住民の方々の意見、考えをしっかりと汲み取って、ありのままの奄美大島がこれからもずっと続いていけばいいと思う。面白くて、頼りになるし、こんなにも生意気な私を受け入れてくれた志摩ゼミの先輩方、私の無茶振りにもしっかりと答えてくれた可愛い後輩、鹿児島県出身の兄弟、わからないことだらけで不安だったと思うが、しっかりと楽しんでもくれた初めてのメンバーたち、先生方、本当に本当にありがとうございました！

隅野由希絵

昨年に引き続き今年もこの研修に参加したのは、一度では奄美大島を知るには物足りなかったからというのが率直な理由である。だから昨年とまったく違う内容の今年の研修はとても楽しかったし、充実したものになった。しかし正直、今年の研修は昨年のものよりハードだったと思う。昨年は初回ということもあり、食の調査を通して住民の方の家に実際にお邪魔して、暮らしの一部や温かさをじっくり知ることができた。しかし今年は期間も短い上に、二泊三日のモデルコースの中に龍郷町の魅力を詰め込まなくてはいけない。昨年来ていたからといって島民でない、まして龍郷町民でもない自分たちが事前に得られる情報は限られている。さらに、観光客への情報の発信方法や、周辺住民の方々のトラブルを避けるための対策など、考えることはたくさんあった。その中でいかに龍郷町の魅力を発見してモデルコースとして完成させるかというのはかなり難しかった。特に、私が昨年感じた龍郷町の魅力である「住民の方の温かさ」をモデルコースに盛り込むことができるかという点がかかなり難しく、観光客に龍郷町の魅力を存分に体験してもらおうと思うと、どうしても住民の方の負担が大きくなってしまふ。私達のグループは龍郷町の「食」と「色」をテーマにモデルコースを作り、龍郷町の景色や食、文化を体感してもらうにはとても良いコースになったのではないかと思っている。もちろんそれも龍郷町の魅力であり私も好きなどころなのだが、少し悔しく思うところでもある。本当は住民の方と一緒に龍郷町での一日を満喫してほしいし、それが魅力であるということを知ってほしい。そうすればもっと良いモデルコースができたのではないかと思う。

今回の研修を通して、改めて観光という産業の難しさを感じた。他のグループの発表を聞いて、ただ綺麗な景色を見たり、おいしいものを食べたりするだけではその土地の本当の魅力を見つけたとはいえないのではないだろうかと思う。土地を知り、住民の方と話してこそ本当の魅力を発見できる。しかしそのためには住民の方の協力が不可欠であり、観光客は住民の方の負担を少しでも減らすように努める必要がある。このバランスが最重要課題なのではないだろうか。龍郷町に限らず、どんな土地でもこのポイントさえ押さえられれば観光地として持続していけると思う。

研修が終わった今思うことは「また行きたい」ということである。自分でも驚くほど奄美大島の虜になっているようで、ここまで思える場所に出会えたことがとても嬉しい。今回の研修ではモデルコースを実際に回るので精一杯で、住民の方と話す機会がかなり少なかったように感じるせいも今年も物足りなさを感じるので、研修としてくることはできないがこれからも個人的に遊びに行こうと思う。

竹内ひとみ

昨年のプロジェクトに参加した先輩に誘って頂いたのをきっかけに奄美大島に興味を持ち参加した。私自身、奄美大島に行くのは初めてで実際に行くまではどこにあるのかもはっきりと知らなかった。そんな私がこのプロジェクトに参加して、今までに体験したことのない島での生活や、奄美大島ならではの文化に触れることができた。実際に行かなければ分からなかったことを知ることができて、フィールドワークの大切さを痛感した。

奄美空港に到着してすぐにその気候や風景から「島だ…！」と感動したのをよく覚えている。本日より気温・湿度が高く10月後半でも半袖で過ごせたことには驚いた。二日目からはすぐに班ごとの活動が始まった。自分たちで事前に提案したコースを元に実際にその場所に行ってみる。旅の途中で気になる場所を発見

したらコースに加えるなど、非常に自由で楽しみながら活動することができた。普段から電車を利用し時間に追われた通学をしている私にとって、車での移動はとて刺激的だった。電車から見る景色とはまるで違い、どこを見ても美しい景色が飛び込んできた。車の窓を開ければ気持ちのいい風を浴びながら打ち寄せる波の音を聞くことができた。また同じチームの先輩方が車内を盛り上げてくださり退屈な時間が一時もなかったように思える。

島の景色はとて美しかった。最も私の心に残った景色は「空」である。海にキラキラと反射させながら新しい一日を告げる朝日、日中のまっさらな青空、水平線上に沈むオレンジ色の夕日、天然のプラネタリウムで見た満点の星空。どれも今までに見たことのない「空」だった。特に星空はカメラで撮ることができなかったため、忘れまいと目に焼き付けた。また、このプロジェクトの大きなテーマである「食」も印象的だ。奄美大島・龍郷町の食を知るために、海の幸を使った海鮮丼、初めて食べた鶏飯・パパイヤ漬、地元の食材を使ったシュークリーム・ジェラートなどを頂いた。いうまでもなく、どの料理もおいしく私はあっという間に虜になってしまった。

前半のホテルでの生活もとても有意義であったが、後半のゲストハウスでもとても楽しむことができた。ゲストハウスでは自分たちの他にも宿泊客や地元の方と一緒に作ってロウソクとランタンの光で食べた夕飯はとておいしかった。台風に見舞われた停電の中での生活は電化製品が使えなかったにも関わらず、特に不自由さを感じることはなかった。外に出ることができなかったため日中はゲストハウスにあった三線を練習していた。帰るころには「海の声」が弾けるようになり自分の家にも三線が欲しくなった。最終日は午前中からゲストハウスの目の前の海で貝殻を拾い、地元の子供たちと遊んだ。そしていつの間にか電気がない生活が当たり前になり、帰るころには停電していたことを忘れていたほどだった。

このプロジェクトを通して想像以上にたくさんのご縁を得ることができた。最初は知り合いが一人もいなく、またメンバーの全員が年上で、知らない土地に行くというなかなかのハードルの高さで不安と緊張でいっぱいだった。引率をしてくださった先生方、そんな私に優しくして下さった大好きな先輩方、このプロジェクトに携わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

田中綾華

10月23日から27日までの5日間、私は初めて九州へ行った。どこへ行ったのかというと鹿児島県の奄美大島にある龍郷町という町だ。私は高校生の頃まで奄美大島は沖縄県だと思っていたくらい奄美大島のことをよく分かっていなかった。しかし、偶然奄美のコンペの話聞き、行ってみたいと思った私は行くことを決めた。台風が近づいていて天候が悪かったが飛行機は無事に飛び、予定通り奄美大島に到着した。まず、東京に比べ温かく感じた。先生の運転でホテルへ向かった。先生を筆頭にテンションがあがり、途中海へと寄り道をした。奄美大島の海はとて青くて綺麗だった。広い景色を見て、この町の自然豊かな景色にすぐさま魅了された。それから宿に着くと部屋に荷物を置き夕食を食べに行った。初日の夕食は鶏飯という奄美大島の郷土料理だ。この鶏飯とは、ご飯に錦糸卵やパパイヤ漬鶏肉などの具材ときざみ海苔や白胡麻などの薬味をのせ、丸鶏を煮とったスープをかけて食べる料理だ。さっぱりとしていてかつボリュームでとても美味しかった。次の日は、奄美大島のDMOについてのお話を聞いた。観光協会を中心に様々な取り組みを行っていてとても興味深かった。その後全員で海や島が一望できる展望台へ行き絶景を日に焼き付け、それ以降はそれぞれのグループで行動した。1泊2日の旅コンペということで私のグループは、色と食を掛け合わせたプランを考えていた。その場所を実際に巡ることはできるか、予算内におさまるか等を検討しながら自分達でコースを巡っていった。昨年の事業では、郷土料理などがっつり食文化等についての調査だったらしく沢山の地域住民の方々と交流する機会があったというが、今回はあまりそれがなかった点がとても残念だった。しかし、実際に様々なコースを自分達で巡ることが出来、観光客と同じよそ者の新鮮な目線でコースを検討することが出来た。そして、自分達独自のコースも開拓することが出来た。観光マップには載っていない場所で広大な海を眺めるという新鮮な経験も出来た。今流行りの「インスタ映え」するような観光資源で溢れていた。こうして調査を終え、日程の後半は発表の準備に取りかかった。前日は日付が変わるまで発表の準備をした。とても戻ったがメンバーで協力して資料を完成させた時の達成感はとて充実し

たものであった。そして、最終日に役場の人などの前で発表。緊張したが無事に発表を終えることが出来た。どのグループも個性がでて魅力的なツアープランを発表していて、聞いていてとてもワクワクした。こうして4泊5日の旅コンペは終了した。この5日間とにかく奄美大島の魅力や龍郷町の魅力を日で見ても感じて沢山発見することが出来た。またぜひ訪れたいと思った。そして、次回訪れる時はもっと地域住民の方々と交流を深めたいと思った。また、奄美大島の伝統工芸や歴史、文化に関してより関心を深めてより深い奄美大島の魅力をもっと探っていきたいと思った。

富田真帆

今回奄美大島で過ごした一週間は、自分が想像していた以上に有意義で、心に残る一週間となった。今回は、龍郷町の食を題材としたモデルコースの企画であったが、現地に訪れる前にはある程度のプランは考えていたため、後は現地調査をして詰めていけばよいという気持ちでいた。しかし、実際に現地で活動してみると、一度も聞いたことのないような現地の言葉であふれており、私地の班はこの点に注目してコースを考えることとなった。実際に現地に訪れてから感じる印象や感想は、外から来た私たちだからこそ気づくことができるものだと思う。なので、それをプランに取り入れることは地域のツアープランを考えていく上で重要な要素であるということを確認した。

現地調査と同様に、発表の準備も大変であった。いくら完成度の高いプランを考えても、それを上手く相手に伝えることができなければ意味がない。今回は、いかに見やすいスライドでいかに聞いている人を惹きつける発表にするのか、ということも課題の一つであった。普段私が作るパワーポイントは、いわゆる「男気スライド」であったため、パワーポイントの作成には苦労した。どの班も前日は夜遅くまで綿密に準備をしており、発表にかける熱量に驚いた。と同時に、私たちも負けていけないという気持ちになった。しかし、発表の前日というとても重要な日に、おそらく坐骨神経痛であろう、突然の激痛が走り歩くこともままならなくなってしまったことは、大変申し訳なかったと反省している。

そして予想だにしていなかった出来事が、台風22号だ。私は土曜日の夕方の飛行機で成田空港に戻る予定だったが、そのちょうど土曜日に台風が奄美大島に上陸してしまったのだ。もちろん、その日の便は欠便。予定もあったため、初めは帰れなくなったことに落ち込んでいたが、今考えるととても貴重な経験をする事ができた。私たちは、同じ宿に宿泊していたサーファーの方々、宿を運営している方や子供たちと仲良くなった。その夜は停電にもなってしまったが、そんなことは目もくれず、みんなで鍋を囲んで楽しい1日を過ごす事ができた。台風の時こそ、みんなで団結して明るく楽しく過ごす、という、島ならではの人の温かさに触れる事ができた瞬間であった。勉強面だけでなく、奄美の人々の考え方や暮らしを実際に体験できて本当に良かった。

このプログラム自体は2回目の開催であったが、私は今回が初めての参加だった。そのため現地の様子分からない状態のまま当日を迎え、不安も大きかった。しかし、去年参加した先輩や後輩、そして先生方のサポートのおかげで、無事に終えることができ、非常に感謝している。また、生まれて初めて離島を訪れ、南国の島の自然や空気を味わい、やはり日本はいいなあと感じることができた。今後、また奄美大島を訪れたいと強く感じた。

中原銀太

昨年に続き参加した「アイランドプロジェクト」、今年はメンバーが半分ほど変わり、ワクワクと不安の入り混じった感情から始まった。わたしの地元である、奄美大島の龍郷町を調査対象にモデルコースを作るというテーマで、3つのグループに分かれて活動を行った。謎旅、食旅、インスタ旅と3グループそれぞれ異なるテーマで作成し、わたしは、食旅についてモデルコースを作っていた。昨年の調査で龍郷町の食文化について研究していたため、その調査結果をもとに食と色をテーマに巡る旅を提案した。去年とメンバーも変わり、内容も大きく変わったため、皆どのようにすればいいか、試行錯誤していた。私は、このプロジェクトの少し前にモデルコースを作る機会があったため、その手順に従って作ることにした。このモデルコー

スを作る中で驚いたのは、奄美の自然の美しさである。六年、調査に訪れた際は人の温かさに驚かされた。警戒心がないというわけではないが、調査に訪れた我々をあまりにも熱い待遇で迎えてくれたため、地元民である私も驚きを隠せなかった。今回の調査では、インターネットやパンフレットの情報をもとに、景色が綺麗なところ、地元の人が足繁く通う名店など、あまり観光客がいかないような場所を中心に回った。この調査の中で、私も初めて訪れるところが多く、景色の美しさに心から感動した。特に「龍の眼」と呼ばれる、安本屋場地域のかがんばなトンネルに沈む夕日が最も美しかった。食に関しても、地元の食材を活かした食卓を多く取り入れていたため、奄美に住んでいた私でも初めて食べるような食材を食べることができた。繰り返すようだが、去年に続いたこの「アイランドプロジェクト」では、これまで住んでいた私でさえ知らなかった奄美大島の魅力、龍郷町の魅力に気づくことができた。モデルコースはもちろん、全てのグループが龍郷の魅力を最大限に生かしたものができ、龍郷町の方にそれを伝えることができた。来年、このプロジェクトが続くかはわからないが、続くのであれば、また参加し、今度は島外の人々にこの魅力を伝えていきたい。

丸山萌香

今回が2度目の奄美大島訪問となった。1年ぶりにやってきたというよりは、どことなく「戻ってきた」という感覚の方が大きかった。1年ぶりに来た理由も、様々でやはり東京育ちの私が普段得られることのない非日常を味わいたいと思ったのが大きな理由だ。今年はまたやることも違って、今回はツアー企画を考える。昨年来て得られた龍郷町の魅力をどうすれば活かすことができるだろうか、昨年とは違ってガラッと考え方が変わった。チームの中には今年初めて来たメンバーもいて、その貴重な視点も生かしながら、自分たちの思い思いのツアーを考えて見る。今までこんなツアーを考えたこともなかった私にとっては想像以上にハードだった。それと同時に旅は好きだがいつもの自分の無計画さが改めて思いやられた気もした。

観光スポットがどんなに良かったとしても、その魅力を引き出すための仕掛けやきっかけが非常に大事だということも改めて実感することが出来た。ただ単純に「楽しい」「きれい」だけで解決出来る物ではなく、それ以上にあらゆる視点から持つて考えることの重要性を改めてこの経験を通して学ぶことが出来た。

また、今回私はこの事業を除いて個人の卒業論文の研究も兼ねて約2週間奄美大島に滞在することになった。友達と一緒にいる時間も欠けがえのない時間であったことに代わりはないが、初めて自分を知る人間が一人になって一週間も過ごす経験は間違いなく生まれて初めてであった。その一日も誰に縛られることもなく、どうすることも好きにできる毎日。そんなことは今までの人生になく、最初はとても戸惑った。最初は一気に一人になったことでの不安で怖い気持ちで押しつぶされそうだった。しかし、そんな不安はすぐに消えた。やはり島民の方々の温かさに救われるのであった。私が出たほとんどの人が関心をもってくれてたくさん助けていただいた。本当に至れりつくせりで同時に何も出来ない自分がすごくもどかしくも感じた。

昨年と比較してみても、私にとっての奄美大島の位置付けがまた変わった気がする。昨年の来る前は単純に遠い南の島というイメージで漠然としたものであった。今回は、きた経験があったことで、観光はしたい気持ちはもちろんあったものの、それ以上に島に溶け込んでゆっくりしたい気持ちが強かった。それだけ私は島の文化に惹かれたのであった。私にとって奄美大島は改めてかけがえのない存在になった。今回の企画もなかなかタイトなスケジュールではあったもののそれだけ考えさせられる内容の濃いものであったと思う。来年は参加してこられないと思うと非常に寂しく感じる。頑張って有休をとっていきたい。

葉袋愛美

私は、今回が初めての奄美大島であった。昨年の参加者からの話を聞き、今年は絶対に参加しようと思っていた。出発当日は台風が近づき、フライトできるか怪しかったが無事に奄美大島へ。ちょうど夏に屋久島に旅行に行っていた私は、着いた時の空気の違いに少し驚いた。なんとなく、同じ鹿児島だしそんなに違うのかと思っていたが、屋久島に着いた時にはあまり感じなかった南国感。ホテルに移動する間に、すでに綺

麗な海と山の景色、そして気持ちの良い風が最高で、途中で車を降り海のそばまで寄り道をした。島によってこんなにも違う魅力があるのかと思った。ひさ倉で頂いた鶏飯とパパイヤ漬け、番屋で頂いたマダ汁などの郷土料理も魅力的だった。

今回の研修は龍郷町の食を題材としたモデルコースの策定であったので、私たちのグループは「色」をテーマに、龍郷町の食と虹の7色をめぐるツアーを考えた。龍郷町を周ってみて感じたのは少し車を走らせるとすぐに綺麗な景色に出会うということ。東京ではどこも彼処も高い建物ばかりでそれに慣れていたが、海や山をはじめ、水平線に沈む夕日や、流れ星も見える満点の星空など、心に残る景色であった。

また、現地で実際に観光に携わっている、奄美大島 DMO の方のお話が聞けたのが非常に有意義で、その中でも特に、観光地域づくりには住民の理解が必要不可欠なわけだが、その住民が観光地としてのこの島の魅力に気づききれていないという現状に正直驚いた。世界遺産登録に向けて、島全体が一丸となって盛り上げていって欲しいし、何か自分にできることはないかと思う。

各グループの発表はそれぞれ個性豊かで、実際に周ってみたいと思った。役場の方などに聞いてもらうのは緊張したが、前日口付けが変わってからも作業した甲斐があったと思えるものになったと思う。私はその翌日には帰らなくてはならず、メンバーと別れるのが寂しかったのはもちろん、たった5日間の滞在だったが随分とこの島の魅力に惹かれ、帰りたくないと思った。この研修を通して奄美は、一度来たらまたもう一度と思えるのが一つの魅力であると思う。社会人になってからも、また必ず訪れたいと思う。その際は、今回は行けなかった地域にも行きたいし、住民の方との交流も出来たらいいと思う。そして、まだ来たことのない人にも魅力が伝われば嬉しいし、伝えたいと思う。

最後に、龍郷町観光課の皆様、あまみ大島観光物産連盟の元井さんをはじめ、このプロジェクトを支えてくださった皆様、そして、今回参加した最高のメンバーと先生方にも心から感謝を申し上げます。

湊優希

2017年10月23日。この時期、日本には台風が複数接近しており、飛行機が無事飛び立つのか、その行方を皆が心配していた。私は今回が初めての参加ということもあり、飛行機のカンパよりも、これから始まる研修に対しての不安と期待で胸がいっぱいだった。それは、奄美人島という初めての土地で、どんな出会いや出来事が待っているのだろうかという期待と、参加するメンバーは学部が同じと言えど、ほぼ初対面で学年もバラバラだったため、短い研修期間で仲を深められるのかという不安であった。そんな複雑な思いを乗せて、無事飛行機は奄美に向けて飛び立った。

到着後、空港を出ると「いもーれ奄美へ！」という看板が目に入った。これを目にした時、これから研修が始まるんだという実感を覚えた。その日は夕食を食べるため、鶏飯で有名な「ひさ倉」へ向かった。鶏飯はもちろん美味しかったが、それよりも印象に残ったのが「パパイヤ漬け」である。柴漬けのようなカリカリという触感と、醤油ベースの独特な甘みがあり、ご飯が進む品であった。

翌日からグループに分かれ、あらかじめ企画していたツアーの現地調査を行った。私達の班は「女子旅」をテーマとし、若い女性(10代~30代)をターゲットとしたプランを企画した。instagramを1つの手段とし、いわゆる“インスタ映え”する写真を撮影することを目的としたものである。有名な観光スポットだけでなく、道中で見つけた隠れスポットも積極的にツアーに組み込んだ。かなりの箇所を回ったが、その中で印象的だった場所が2カ所ある。1つは武野さん宅である。庭では約30羽のうさぎが放し飼いにされており、写真を撮ったり、戯れたりして楽しんだ。昼食には武野さん白らが捕らえた猪の肉をごちそうになった。奥みがまるでなく、意外とさっぱりしていたのであつという間に平らげてしまった。聞けば今後、民泊を開始する予定で役所に申請してる段階だそう。今話題の民泊の現場を見ることができたのは貴重な体験となった。何よりも、見ず知らずの学生を温かく迎え入れて下さった武野さんの優しさに感動した一日であった。

2つ目はガジュマルの大木である。これは道中でたまたま見つけたスポットだが、今まで知られていなかったのが不思議なくらい壮大な場所だった。道を覆うように木がそびえ立ち、日本にいることを忘れる様な感覚に襲われた。自然の偉大さを肌で感じるとともに、新たな発見と経験をさせてくれる「旅」が持つ魅力を再認識できた。

こうして27日の最終日に、現地調査で得たデータをもとにツアープランを完成させ、市役所の方々の前でプレゼンテーションを行った。大変緊張したが、班員全員で協力し、なんとか無事に発表を終えることができた。

研修を終えてみると、メンバー全員と気を許して会話できるようになっており、別れが来たときは本当に寂しい気持ちになった。同学年も後輩も本当に個性豊かなメンバーで、始終笑っていたような気がする。奄美大島で出会った方々や、素晴らしい先生方とメンバーに感謝するとともに、社会人になっても、時間を見つけて奄美に戻ってきたいと思う。

山本詩織

2017年4月。私は柏崎先生の授業を履修し、自己紹介で八丈島という離島出身である話をしたことがきっかけとなり、今回アイランドキャンパス事業に誘っていただき、参加することができた。出発当日まで、初対面の人たちと初めての奄美大島という土地で、どういった研修になるのか想像もつかないなか、5日間調査をすることに対してとても不安でいっぱいだった。しかし、奄美大島へ到着し、空港を出て島の空気を吸った瞬間、「やっぱり私は島が好きだ」と強く感じることができ、不安よりもこれからはじまる研修への期待でいっぱいになった。

今回の研修では、1泊2日、予算5000円で龍郷町を満喫するツアープランを3グループに分かれて企画し、最終日にプレゼンテーションを行うというものであった。5日間、調査をするなかで特に印象に残っていることは人の温かさである。どういったツアープランにするか調査をしていく中で、私たちのグループは武野さんにお会いすることができた。最初は座にいたたくさんさんのうさぎに惹かれ、調査の疲れを癒し遊ばせていただいていたが、昼食には武野さんがご自身で狩られた猪肉をご馳走になり、みかんや烏バナナも手土産にいただいた。初対面である私たちを快く受け入れてくださり、たくさんのお話を聞かせていただくことができた。その他の道中でも、島の方は優しく対応していただき、普段東京という都会の中で生活していると気付くことのできない人の温かさを強く感じることができ、島ならではの心温かくなった。最終日の成果報告会の準備をすることは想像以上にとてもハードであった。しかし、普段一緒にいる友達とではなく、この研修で知り合うことのできたメンバーとツアープランを考え、プレゼンテーションを行うことができたのは刺激のある良い機会だと感じた。

5日間という短い研修の中で、奄美大島のたくさんさんの自然に触れ合うことができ、島の人の温かさや、ゆったりとした時間の流れで充実した調査をすることができた。しかし、まだまだ物足りないと感じ、今回の参加メンバーの大半が昨年に引き続きの参加である理由が分かった。また、ぜひ参加したいと強く感じた。最後に、奄美大島で調査にご協力くださった皆様、一緒に参加したメンバー、先生方に心から感謝いたします。

吉満幸保

私にとって、今回は二回目の奄美大島での観光振興プロジェクトだった。去年と少し変わり、半数くらいが新しいメンバーになっていたのが最初のミーティングは少し緊張していた。しかし、みんなとても優しくすぐに打ち解けられることができた。

今年のテーマは「5000円以内で龍郷町を満喫する旅コンペ」であり、各班に別れて龍郷町内のモデルコースを提案し競い合うという内容だった。去年の龍郷町の食文化に焦点を当てたテーマからがらりと変わり、今年は観光に焦点を当てた上で食における魅力を発信するという目的で調査を行った。観光学科に所属する私にとって興味がある分野についてたくさん学べることもあるだろうと思い、期待がふくらんだ。

私たちの班のモデルコースのテーマもあって、王道の観光だけでなくネット上に載っていないような写真スポットなど龍郷町の新しい魅力を自ら発掘する経験ができ、とても有意義な調査ができたと感じている。

去年との違いは、調査中に現地の方との親密なふれあいが少なかったことだ。今年は奄美の資源の潜在的な可能性を見つけ出すことができたので今回は今回でとてもいい経験ができたと思っているが、去年は各集

暮に赴いて聞き取り調査をおこなったり、種おこしに参加したりと現地の方と近い距離でコミュニケーションをとることができたので、今年はそれが少なく、寂しい気持ちがあったというのが正直なところだ。しかし、今回も素敵な出会いがいくつかあった。一番思い出に残っているのは武野さんとの出会いだ。調査中に偶然出会ったこの方は、出会ってすぐの見知らぬ私たちにみかんやイノシシ肉をご馳走して下さり、たくさんお話もしてくれた。

温かい心で迎え入れてくれる奄美の方々を、私は訪れるたびに好きになっていく。成果発表会で来てくださったある方に、「わざわざ自分のお金と時間をかけてなぜ今年もプロジェクトに参加したのか」と尋ねられたが、これが一番の理由だと思う。一度訪れたら必ず好きになる、また訪れたいと思わせる、そんな奄美の魅力をこのプロジェクトを通して、また自ら発信して、伝えていけたらと強く思う。最後に、今回のプロジェクトを支えてくださった先生方や先輩方、そして現地の方々に心から感謝申し上げます。

6. 総括

本年度は昨年度の成果を踏まえ、龍郷町に存在する多様な「食」そして集落ならではの魅力をつなぐ観光ルートを企画するという新たな試みでスタートいたしました。初めて奄美大島を訪れるメンバーがほとんどで手探りであった昨年度に比べ、今年度は昨年度に参加した学生が大いにリーダーシップを発揮し、旅程や宿の手配、調査内容の取りまとめをおこない、スムーズに調査に挑むことができました。

1年生から4年生、国際地域学科と国際観光学科の学生が入り混じり、3つのグループは自らの好奇心と発想力を駆使して、ユニークな観光ルートを提示してくれました。観光産業が盛んな奄美大島において、すでにある魅力的な観光ルートがいくつも紹介されている中、学生の提示したルートからは龍郷町ならではの数々のストーリーを散見することができました。龍郷町を走り回る中で出会った住民の方々、お店の方々、そこで得られた会話の中から、地域の方が本当に大切にしている発信したいと思っているものを大切に汲み取り表現する。それはいくらかでも出来上がった情報を手にすることに慣れているスマホ世代の学生にとって非常に意義のあるプロセスでした。

最終日の発表会では、龍郷町役場の方に加え、お世話になった住民の方も数名いらしてくれました。意見交換がなされるなかで、こうした学生の原動力を生かしたさらなる拠点づくりや事業計画までも展望することができました。近年、国内外から新しい発見や体験を求めた観光客が増加するとともに、ゴミ問題や渋滞、文化の形骸化や地域コミュニティの弱体化など新たな問題も見え隠れしています。龍郷町も例外とはいえません。何を発信し、何を守るべきか、何のために、と改めて考えさせられる機会ともなりました。

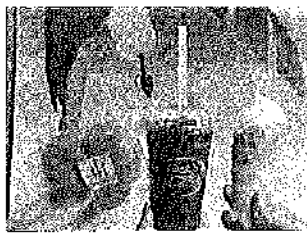
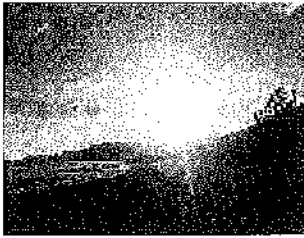
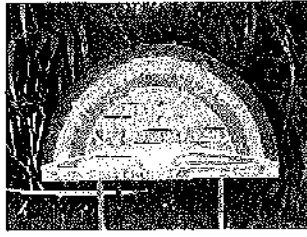
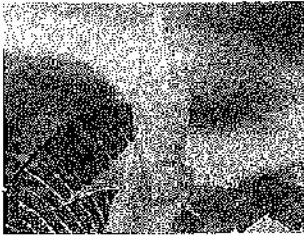
今年度は「種おろし」の時期に合わせて期間を設定しましたが、台風の影響で延期となり参加することが出来なかったのは非常に残念でした。台風直撃の夜は停電となり、島のもつ自然の厳しさを体感するとともに、宿のオーナーや宿泊者の方々、近隣住民の方々といっしょに夕飯をこしらえ蠟燭の灯りのもと呑み飲み語り合うというなんとも逞しい一面も体験することができました。翌朝目の当たりにした台風一過の空と海の美しさは忘れられません。

大変お世話になりました龍郷町役場のみなさま、奄美大島観光物産協会、龍郷町のみなさま、誠にありがとうございました。

Instagram



Instagram



Instagram



♥ いいね！100000件

奄美大島アイランドキャンパス事業 2017 のゆかいな仲間たち

#奄美大島 #龍郷町 #鹿児島県 #アイランドキャンパス #モデルコース企画
#インスタ映え #island #sea #1泊2日の龍郷旅 #旅好きとつながりたい
#鶏飯 #まだ汁 #りゅうがくかん #手広海岸 #台風直撃 #24時間停電
#出会いに感謝 #たくさんありがとうございました
#志摩先生 #山崎先生 #柏崎先生 #可愛い学生たち #報告書 #終わります



鹿児島県離島振興協議会「平成29年度 アイランドキャンパス事業」
東洋大学社会貢献センター「平成29年度 地域活性化活動支援事業」

「しまごはん」をつなぐ奄美大島観光ルートの企画 報告書

平成30年1月

東洋大学国際学部

志摩 壽寿・山崎 義人・柏崎 梢

網中 美里・萩野 弥結・齊野 平陽菜・隅野 由希絵・田中 綾華・竹内 ひとみ・富田 真帆・

中原 銀太・丸山 萌香・薬袋 愛美・湊 優希・山本 詩織・吉満 幸保

